

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

はやいもので、1学期もあと1ヶ月を切りました。夏休みまでに、学校に来る日は21日しかありません。悔いの残らないよう、しっかり勉強していきましょう。

さて、今日は日記についてお話ししようと思います。

今、3年生以上の人には「教科日記」というものを書いていると思います。はじめは6年生のお友だちが書いてくれました。

とても素敵な日記で、これを読むだけで、授業中にどんな勉強をしたのかが、よくわかります。特に、お友だちの名前が書いてある日記はよりリアルでいいですね。

○○さんに教えてもらってよくわかりました。とか、私と○○さんの考えは違うかもとはじめは思いましたが、よく聞き合うと、結局同じ意見だとわかりほっとしましたなど、友だちの名前を入れながら、授業を思い出すと、とても上手に書けると思います。

この授業日記がしっかり書けるようになると、成績もどんどん上がりますので、ぜひみなさんもがんばって教科日記をつけるようにしてください。

このあいだ、あるお友だちと話していてびっくりしたことがありました。それは、その子は先生に言われて書く教科日記以外に、自分でも日記を書いているというのです。毎日おこったできごとや、おもしろかったこと、腹が立ったことなどを毎日書いているというのです。すばらしい！と思いました。

実は、校長先生も小学校から大学に入るまで、ほぼ毎日日記を書いていました。大人になってからしばらく書いていなかったのですが、3年前からまた日記を書いています。

なぜ日記を書くのか。答えは簡単で、日記を書いているときはめんどくさいなあと思うこともあるのですが、あとから読み返すと、めちゃくちゃ面白いのです。たぶん、他の人が読んでも面白くないと思いますが、自分が書いた日記ほど自分にとっておもしろい読み物はないと思います。

少し恥ずかしいのですが、校長先生が書いた日記を少し紹介しますね。

令和元年5月12日日曜日 晴れ

いつものように夕食のあと、ゆっくりテレビを見ていると、チェリーが急に散歩に行こうとぐずりだした。いつもはグーグー寝ていて、「散歩の時間だよ」と言ってはじめてむくりと起きて、お散歩に行くのだが、今日はなんだか違っていた。



いつも夜のお散歩では公園のほうに行くのだが、その日はなぜか反対の山のほうに向かう道に行きたがって、なんでかなあと思っていた。山の方は少し暗くて怖いから嫌なのだが、いつもチェリーの言う通りにお散歩は進むので、じゃあ今日はそっちに行くんだねと、山のほうの道を選んだ。

時刻は夜の9時ごろだった。山のほうに向かう薄暗い道を歩いているとチェリーが何故か後ろの方をすごく気にしているのがわかった。いつもはどんどんと前に進んでいくのだが、後ばかり振り返るのだ。何でかなあと思って、後の方をよく見

ると、一人のおじいさんがトコトコとこちらに向かって歩いているのが見えた。

はじめは、近所に住んでいる（校長先生の82歳）父かと思いつたが、違った。

（校長先生のお父さんとチェリーちゃんはとても仲が悪く、出会うといつもチェリーちゃんはワンワンと吠えるからです。）

チェリーはそのおじいさんには吠えもしないでじーっと見つめているので、父ではないんだなとわかった。

その人の顔をよく見ると近所の人でもなく、それどころかどうも様子がおかしかった。なんかフラフラと彷徨歩くような感じで、だんだんこちらに近づいてきたのだった！

足元も少しおぼつかなくて、どこかをめざしてしっかりと歩いている感じではなかった。

とうとうそのおじいさんが、すぐ近くまでやつてきた！どうしよう？チェリーも怖いのか、かたまってわんわんと吠えもしない！ついに目の前にそのおじいさんが立ちふさがった。

今日の話はここまでです。

この日の日記の続きはまた来週お話しますね。

最後まで先生の話を静かに聞いてくれて本当にありがとうございます。

またよかつたら、今日のお話の感想を校長室前のボードにつぶやいてみてください。

これで校長先生の話を終わります。